

### ジャーナリズム学科オンラインセミナー

## 最前線のジャーナリストらが体験談 社会的意義を理解

文学部ジャーナリズム学科のオンラインセミナー「社会を動かす！ジャーナリズムの仕事 新聞・テレビ第一線から」が8月28日、ウェブ会議システムZoomを使って開催された。

1〜4年次生約50人が参加し、第一線で活躍するジャーナリストや本学OBの体験談を聞き、ジャーナリストの仕事や、

メディアの社会的意義について理解を深めた。第一部は、松川敦志さん(秋田魁新報社会地域報道部長、2019年度新聞協会賞)と、平良いづみさん(沖繩テレビアナウンサー・キャスタ

1、18年度日本民間放送連盟賞優秀賞など)の2人が講演。地方紙・地方局の役割、メディアの持つ力や可能性を語った。第二部は、人文・ジャーナリズム学科の卒業生で、中日新聞記者の板倉陽佑さん(平29文)と、日テレ・テクニカル・リソースズ(BS日本技術局技術部長)の鯉澤将平さん(平30文)が参加。山田健太教授、澤康臣教授を交えて、現在の仕事、就職活動や学生時代の過ごし方について話した。

板倉さんは「このセミナーのように、最前線で活躍する人の話を聞き、メディア脳を形成してほしい」とアドバイス。鯉澤さんは休学して世界を巡った経験を踏まえ、「いろいろなことに挑戦しよう」と語った。

自作する際に見本になるものがありなく苦労した」と話すのは干場寧々さん。ゼミ生同士でアイデアを出し合いながら試行錯誤を重ね、最終的には定番のモビール(吊るし飾り)に加えて、風鈴やアクセサリースタンドも完成させた。素朴な風合いのため、インテリアとして和室にも洋室にも合わせやすい点が魅力だ。土谷真白さんは「アイデアを生む発想力や自分の考えをメンバーに伝える提案力が身についた」と



ジャーナリストの仕事について話す山田教授、板倉さん、澤教授、鯉澤さん(左上から時計回り)

27チームが、スライドで前期の取り組みを報告。同僚の学生や教員が参加し、質疑応答などを行った。各チームは参加者から上がった意見を参考にし、12月の最終発表に向けて検討を重ねていく。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、2月からオンラインで活動してきた。テーマも「オンラインを活用した学生向けツールの開発」

「オンライン会議システム機能などについて検討を進めている。鈴木プロジェクトは「ドローンとダンスによる新しい表現」について取り組んでいる。ダンスの動きに合わせて動作するドローンを製作し、両者の融合で新しい表現を作ることが最終目標。プログラミングに苦しみながら、「特定のポーズを検知するの」に時間がかかるので改善を図りたい」と話した。

オリジナルのパーチャルチューバー動画を制作するのは藤原プロジェクト。キャラクターデザイン、楽曲制作から映像編集まですべてをメンバーが手掛け、最終発表に向けて13話程度の作品に仕上げている。

「プロジェクとり組み報告」ネットワーク情報

ネットワーキング情報

鈴木プロジェクトの発表

鈴木プロジェクトの発表

鈴木プロジェクトの発表

鈴木プロジェクトの発表

鈴木プロジェクトの発表

鈴木プロジェクトの発表

鈴木プロジェクトの発表

鈴木プロジェクトの発表

鈴木プロジェクトの発表

鈴木プロジェクトの発表



左から神原教授、蒲田さん、土谷さん、干場さん

商学部・神原理ゼミの3年次生は現在、海洋プラスチックごみ問題の解決に向け、環境に配慮した商品のプロモーション活動に取り組んでいる。

そのうちのひとつが大麦の茎から作られる「大麦ストロー」。再利用可能で、廃棄時には土に混ぜて肥料として使うこともできる。

今年7月に活動を開始し、これまでにSNSによる情報発信のほか、商品誕生の背景などを紹介するチラシや商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード

展示会場で配布されたチラシと商品カード



# 大麦ストロー活用PR

## 商・神原ゼミ 廃プラ問題に取り組む

手応えを感じている。大麦ストローを企画した会社の代表を務め、今回の活動を共にした蒲田ちか社長は「社会課題の解決に向け、柔軟な発想を持った学生と真剣に取り組めたことがうれし」と話す。

神原教授は「身近な商品をきっかけにして、その先にあるSDGsやソーシャルプロモーションについて理解を深めることがゼミ活動の狙い。その意味では本プロジェクトは緒に就いたばかり。今後はほかの環境配慮商品も交え、カフェやイベントでのより実践的な活動につなげていってほしい」と語った。

神原教授は「身近な商品をきっかけにして、その先にあるSDGsやソーシャルプロモーションについて理解を深めることがゼミ活動の狙い。その意味では本プロジェクトは緒に就いたばかり。今後はほかの環境配慮商品も交え、カフェやイベントでのより実践的な活動につなげていってほしい」と語った。

神原教授は「身近な商品をきっかけにして、その先にあるSDGsやソーシャルプロモーションについて理解を深めることがゼミ活動の狙い。その意味では本プロジェクトは緒に就いたばかり。今後はほかの環境配慮商品も交え、カフェやイベントでのより実践的な活動につなげていってほしい」と語った。

神原教授は「身近な商品をきっかけにして、その先にあるSDGsやソーシャルプロモーションについて理解を深めることがゼミ活動の狙い。その意味では本プロジェクトは緒に就いたばかり。今後はほかの環境配慮商品も交え、カフェやイベントでのより実践的な活動につなげていってほしい」と語った。

神原教授は「身近な商品をきっかけにして、その先にあるSDGsやソーシャルプロモーションについて理解を深めることがゼミ活動の狙い。その意味では本プロジェクトは緒に就いたばかり。今後はほかの環境配慮商品も交え、カフェやイベントでのより実践的な活動につなげていってほしい」と語った。

神原教授は「身近な商品をきっかけにして、その先にあるSDGsやソーシャルプロモーションについて理解を深めることがゼミ活動の狙い。その意味では本プロジェクトは緒に就いたばかり。今後はほかの環境配慮商品も交え、カフェやイベントでのより実践的な活動につなげていってほしい」と語った。

暗い世界 ウェールズ短編集 河野真太郎 編訳

昔、産業を失った現在のウェールズは貧困とコミュニティの分断に苦しんでいる部分があります。本書は20世紀初頭から21世紀にかけてのウェールズを舞台とし、そのようなウェールズの生活のさまざまな面を切り取ってくれた5編の短編集を集めたものです。炭鉱、階級、戦争、女性、日常……。そういった多彩な主題が、多彩な語り口で提示されています。(堀之内出版・1800円＋税)

著者(この)のしんたろう) 国際コミュニケーション学部教授。英文学。



Quality for You

確かなクオリティを、明日へ。世界へ。

三菱UFJ銀行

サービス、キーホルダー、コンセント、ジェットコースター、イメージアップ、ソフトクリーム、マニキュア、フライドポテト、ペットボトル、サラリーマン。

普段使う表現の中にどれだけ多くの和製英語が含まれているか、街のいろいろなところを観察してください。駅などの表記、店舗の看板、Tシャツのロゴ、公共施設での英語のアナウンス、道路表記、ありとあらゆるところでこの和製英語による表現を目にするでしょう。英語を日本語に訳して理解しようとする。そして日本語を英語に訳して表現しようとする。これを続けていくと、和製英語の言葉や表現がどんどん増え続けることとなります。和製英語は日本語なのです。

そしてこのことに気がつくと、同時に外国語として英語を学ぶということが俄然、面白く、やりがいのあるものになるのではないのでしょうか。なぜなら、日本語を飛び出してもう一つ別世界を手に入れることになるのですから。

(応用言語学〈第二言語習得・英語教育学〉)

縮短版。全文はCALL教室ホームページで。

英語と和製英語

和製英語という言葉を知ったこと